

皆様こんにちは、

私は只今ご紹介を頂きました元 RI 会長の田中作次です。本日は、このような盛大な青少年のイベントにお招きを頂きありがとうございました。私はロータリーに入会して以来今年で 40 年目になりますが、これまで数多くのロータリー行事で、たくさんの方々にお話をする機会を得ました。そして何度も、「ロータリーとは何か」、「ロータリアンは何をする人たちなのか」と尋ねられました。

それに対し私は、誰が質問しているか、時間がどのくらいあるかによって、いろいろ違う答え方をしてきました。しかし、「ロータリーとは何ですか」という質問に対する、手短で、最も適切な答え方は次のようなものです:「ロータリーとは、世界をより良いところにする手段です。好ましい真の変化を世界で起こすために、最も多くの人材と可能性を提供できる団体です」という答え方です。

本日皆さまがここにいらっしゃるのは、ロータリーを信じているからだと思います。ロータリーの RYLA プログラムや青少年交換、平和センタープログラムそして財団奨学金プログラムな若い人タリの人生を変える力、さらには、より平和な世界の構築という高い目標の下に、人々を結集させる力を持っていると信じているからだと思います。

今日(こんにち)の世界には、大小さまざまな問題が山積しています。戦争の悲劇や、飢えている人、病気に苦しんでいる人、悲しみにくれる人たちの姿が、毎朝のようにニュースで報道されています。それを見ると、私たちだけで変化をもたらすには、あまりに大きく、困難な問題のように思えます。何かできたらとは思いますが、方法がわからないため、結局は何もせずに終わってしまうものです。

日本語では、これを「仕方がない」と表現します。つまり、「自分では変えられない、何もできない」という意味です。英語ならおそらく、「I throw up my hands」とでも言うところでしょう。しかし、ロータリーはそれを変える力を持っています。ロータリーで力を合わせて取り組めば、あきらめる必要はありません。自分自身の手で問題に取り組んで、実際に影響を与えることができます。

ロータリーは、他者のために思いやりの心を持った人たちが一步踏み出し、世界を良くするために一役買う手段を提供してくれます。世界をもっと良いところになりたいという気持ちに答えてくれます。ロータリーは、世界中の人たちが、人種、宗教、国籍や民族そ

して政治の壁を乗り越えて、今必要とされていることをするため、必要とされている変化を起こすために、協力し合う方法です。

それを見ると、私たちだけで変化をもたらすには、あまりに大きく、困難な問題のように思えます。何かできたらとは思いますが、方法がわからないため、結局は何もせずに終わってしまうものです。日本語では、これを「仕方がない」と表現します。つまり、「自分では変えられない、何もできない」という意味です。

しかし、ロータリーはそれを変える力を持っています。ロータリーで力を合わせて取り組めば、あきらめる必要はありません。自分自身の手で問題に取り組んで、実際に影響を与えることができます。ロータリーは、思いやりの心を持った優しい人たちが一歩踏み出し、世界を良くするために一役買う手段を提供してくれます。

世界をもっと良いところにしたという気持ちに込めてくれます。ロータリーは、世界中の人たちが、人種や国籍や政治の壁を乗り越え、社会で今必要とされていることをするため、そして必要とされている変化を起こすために積極的に行動する組織です。ロータリーでは毎年度、RI テーマを設けています。私が RI 会長だった 2012-13 年度のテーマは、「奉仕を通じて平和を」というものでした。

このテーマは、ロータリーが行う奉仕活動が、究極的にはみな平和を築く助けになるという、私の信念から作りました。例えば、人々がきれいな水が飲めるよう井戸を掘るにしても、母親たちが安全に子どもを生めるよう助産師を養成するにしても、あるいは、教育の機会がなかった人たちに読み書きを教えるにしても、これらはすべて、世界をより平和にする上での障壁を取り除く取り組みです。

ですから、ロータリーで行うすべての奉仕活動は、平和構築に向けた手段であると言えますが、そのなかでも、RYLA や青少年交換は特別なものです。2005 年のことでした。当時、国際ロータリーの次期会長だった、カール・ウィルヘルム・ステンハマーさんがこうおっしゃったのを覚えております。「世界中の 17 歳の少女がみな青少年交換に参加できたら、この世から戦争はなくなるでしょう」と、私はその通りだと思います。

青少年交換は、ロータリーで最も長い歴史を持つプログラムの 1 つです。青少年交換の経験は、参加する青少年とご家族に、多くのことを教えてくれますが、何よりも視野を広げてくれる経験です。それまで一つの国、一つの文化、一つの生き方しか知らなかった若者たちに、それ以外の可能性を示してくれます。自分たちに対して、ほかの人たちは必ずしも同じ見方をしていないことを気付かせてくれます。

1年間で、自分自身を発見し、大きく成長する機会を与えてくれます。海外で1年を過ごす方法は、青少年交換以外にもあります。しかし、親善を使命として、ほかの文化を体験する機会を若い人たちに与えるプログラムは、青少年交換だけです。参加者がさまざまなら、交換での体験もさまざまです。

自分たちに対して、ほかの人たちは必ずしも同じ見方をしていないことを気付かせてくれます。1年間で、自分自身を発見し、大きく成長する機会を与えてくれます。海外で1年を過ごす方法は、青少年交換以外にもあります。しかし、親善を使命として、ほかの文化を体験する機会を若い人たちに与えるプログラムは、青少年交換だけです。参加者がさまざまなら、交換での体験もさまざまです。

共通しているのは、どれも、参加する青少年を変える体験だということです。私たちは皆、新世代奉仕 RYLA やロータリー青少年交換、そしてロータリー奉仕の力を信じています。これらのように新世代への奉仕によって、参加者とその家族や地域社会に素晴らしい変化が起こることを知っています。

それだけでなく、このプログラムの素晴らしい影響というものは、皆さまの絶え間ない努力と貢献、そして参加するすべての青少年の安全と成功に対する皆さまの責任感なしには、ありえないことも理解しています。皆さまのおかげで、ロータリーがより強力なものとなり、その未来はより明るくなりました。皆さまのおかげで、世界はより平和なところになるでしょう。

皆さまが若者一人ひとりに力を入れるごとに、ロータリアンの思いやりが伝わります。「力を合わせれば、より良い世界に一步近づける」という、大切なメッセージが伝わります。皆さま、私は、ロータリーが世界をより良くしていると、心から信じております。ロータリーが、人類のすべての問題を解決できるとは思っておりませんし、それだけがロータリーの目標でもありません。

ロータリーの目標とは、世界をより良くすることです。全力を尽くして、現状を少しでも改善することです。みんなが力を合わせてこそ、より良い、より平和な世界が実現できます。私たちがロータリアンとして本日ここで集まっているのは、そのためです。さて青少年奉仕は、ロータリーで最も新しい五つ目の奉仕部門です。長期的な影響を生み、今の人々だけでなく、後世のために何かを残そうというロータリーの思いが、青少年奉仕に反映されています。

青少年奉仕は、青少年とその家族、そして未来の世代のための、すべての奉仕を含んでいます。識字率向上、職業訓練、母親のための保健プログラム、子どもたちの栄養強化といった活動から、RYLA、ローターアクト、インターアクト、ロータリー青少年交換などのプログラムに至るまで、ロータリーでは、若者たちがベストの状態での人生の第一歩を踏み出せるよう支援しています。

一例として、現在、ナイジェリアでは、18人に1人の女性が、出産によって命を落としています。ロータリーは、母親の保健のための取り組みを通じて、このような悲惨な状況をなくし、母親のいない子が一人でも少なくなるよう、活動しています。さらにロータリーは、20億人の子どもをポリオから守ってきました。

かつて世界を苦しめていたこの悲惨な病気は、撲滅の寸前にあります。ロータリアンの長年の活動によって、世界からポリオがなくなる日は遠くないはずで、また、それぞれの地元地域で、子どもたちに読み書きを教え、貧しい家庭の子どもに本を贈るといった活動もしています。読書を通じて、子どもたちは夢を膨らませます。本は、新しい世界への扉を開くものです。

青少年交換では、世界がいかに大きいかを、直に見てもらうことができます。異文化を体験し、視野を広げ、新しい人々との出会いを通じて、平和を推進し、思いやりの心を育てることができます。また、RYLA、ローターアクト・クラブとインターアクト・クラブを通じて、奉仕の大切さを伝えることができます。

ロータリアンは、子どもや青少年と接しながら、一人ひとりの可能性を広げ、彼らの人生を変えています。彼らがどのような大人になるのか、ロータリーからのプレゼントが彼らの未来にどう影響するのかは、誰にも分かりません。しかし、今、私たちががしていることが、将来、彼らの人生を通じて、社会に良い影響を与えていく事は確かです。

青少年奉仕は、ロータリーにおいて極めて重要な部分です。未来の世代がロータリーを頼りにしているように、ロータリーも彼らに頼っています。ロータリーは発展し続け、新しいロータリアンを生み出していく必要があります。将来、ロータリーの活動を継承していくのは、ほかでもなく、次世代のロータリアンです。私たちは、熱意や知識や経験を若い世代に引き継ぎますが、同時に、彼らから多くを学ぶことができます。

ロータリーが大切にし、必要としていることの多くは、情熱とか、積極性など、若さを連想させる要素です。若者は、恐れ知らずです。できない理由の言い訳を探す代わりに、やり遂げる方法を見つけようとしています。

ロータリーでは目標を高く掲げていますので、このような姿勢に共感できる方も多いはずですが。例えば、私たちが掲げた目標は、数人の子どもにポリオの予防接種をすることではなく、ポリオを世界から撲滅することでした。目標を高く掲げてはじめて、一生懸命にがんばり、限界を押し広げようという意欲が沸くものです。

若者たちが持つもう一つの特徴は、柔軟性です。ロータリーが発展するには、変化する世界とともに、私たちも変化する柔軟性を備えなければなりません。新しいアイデアや考え方に心を開くことも必要です。

他人の意見や感想を聞き、批判に耳を傾けることが大切だと、常々、私は申し上げてまいりました。他からの批判を無視したいと思うのは当然ですが、そこから学ぶことも多いものです。私はビジネスマンでしたので、顧客を無視して成功はできないことを心得ております。クラブや地区について問題を指摘する人がいたら、真剣に耳を傾けるべきなのです。

そうした意見に進んで耳を傾け、新会員に積極的に参加してもらえば、一人一人がロータリーの重要な一員であり、ロータリーの未来に対する責任を共有しているという自覚が生まれるでしょう。

毎年、青少年交換プログラムで、何千という高校生を海外に派遣しています。また、ロータリーのコミュニティーには、何十万人という学友がいます。これらの学友たちに入会してもらうには、どうすればよいでしょうか。

例えば、学友の行事を開催したり、ソーシャルメディアの力を活用できるように。また、新しいインターアクト・クラブやローターアクト・クラブを設立したり、インターアクターとローターアクターのつながりを強めることもできるでしょう RYLA を含めて次世代に「超我の奉仕」を引き継ぐことは、時間をかけて行う価値のあることです。

会員基盤を成長させることは、すべてのロータリアンが果たすべき役目です。それは、単に会員を増やすということだけでなく、もっと多くの人とロー

タリーのプレゼントを共有することを意味しています。

私にとって、「超我の奉仕」とは、人生そのもののあり方です。人は誰でも一人で生きて行くことはできません。誰もが、地域社会、家庭、学校、職場などで、他の人々と人生を分かち合っています。誰かと人生を分かち合いたいという気持ちは、人間として自然なことです。自分が幸せな時や悲しい時、成功した時や困難に直面した時、誰かにそばにいてほしいと感じるものです。

それと同じように、誰かが私たちのことを必要としています。地元地域社会での奉仕は、人を助けるだけでなく、自分自身にとっても得るものが多いです。奉仕活動を通じて、近所の人たちをもっとよく知ることができます。また、その人たちに、地域社会の大切さを伝えることができます。

「世界でよいことをしよう」と言葉で言うだけでなく、実際に行動で示すことが重要です。活動の大小は、問題ではありません。大切なのは、自分たちの手で、より良い世界を実現しようと努力することです。また、私たちロータリーがそのような努力をしていることを、人々に知っていただくことです。

これまで私は、世界各地の訪問を通して深く印象に残った数々のプロジェクトがあります。ケニアでは、親がエイズで亡くなったために、孤児となった子供たちのための施設を見学しました。このような子どもたちはあまりにも多く、施設に入ることでできない子供たちが沢山います。

こうした状況を認識した地元のロータリアンは、援助の手を差し伸べ、他の国のロータリアンと協力して、施設と学校を設けました。このプロジェクトによって、子供たちは路上の生活から救われた上、ベットと食事に加えて、介護や教育を受け、生活技能を習得し、家庭の雰囲気と希望のある未来が与えられたのです。

このようなプロジェクトを一つ地元社会が単独で支援することは困難です。しかしロータリーを通じて、いくつかの地域社会が協力すれば、子供たちを助けることができます。

イスラエルでは、世界で最貧国の子供たちに現代的な心臓医療を提供しているロータリーのプロジェクトを知りました。このプロジェクトでは、小児心臓外科医が、アフリカ、ヨーロッパ、中東に赴き現地の医師に手術や集中治療の研修を行っています。さらにこれまで18年間に、1万7千人を超える子供たちが

テルアビブにやってき心臓救命手術を受けました。

他の多くのロータリープロジェクト同様、このプロジェクトは、当初の計画よりも多くのことを成し遂げてきました。もちろん当初も心臓疾患を抱える子供たちに現代医療を提供し、長く健康的な人生を与えることを目標としていましたが、目標への過程で、平和への構築にも役だってきました。

手術を受けにやってくる子供たちの半数は、パレスチナ人民居住区や、ヨルダン、イラクから来るアラブ人の子供たちです。彼らはイスラエルを嫌い、恐れるよう教えて育てられましたが、このプロジェクトを通じて家族も含め、それまで見る事のなかった現実を、自分の目で見える機会に恵まれました。

政治のないところで、両サイドの人たちが結び付いたのです。そこにある思いやりの心、コミュニケーション、相互理解、それ以外の方法では実現しなかったでしょう。これこそ、私たち異なる背景を持っている人たちにとっては、平和を構築するための最善の方法ではないでしょうか。このような行動を通じて、奉仕の心を多くの人々に持って頂き、幸せと希望に満ちた世界を作り、究極的には、世界平和という目標を実現できると私は思います。

ロータリーは長年、私の人生の中心となってまいりました。ロータリーのおかげで、世界を違った視点から見るができるようになりました。ロータリーは、地域社会や国際社会に影響を与えられるだけでなく、私がそうであったように、一人の人間の人生に大きな影響を与えます。ロータリーの真の素晴らしさは、そこにあるのではないのでしょうか。

ロータリーへの入会理由はそれぞれ異なるかもしれませんが、誰かの人生に喜びをもたらすことによって、自分自身が幸せになれるということは、多くのロータリアンにとって、ロータリアンであり続ける理由となっているのではないのでしょうか。これこそが、ロータリーの精神であり、平和な世界を築くために必要な精神であると信じています。

私はRI 会長になって以来、新しい体験をたくさんさせていただきました。初めてアフリカそして南米の国々を訪れたのをはじめ、インド、モンゴル、フィリピン、ネパール、ヨーロッパ、米国の各都市など、2年半にわたり世界各地を訪問することができ、訪れる先々で、貴重な体験をさせていただきました。

アムステルダムでは、証券取引所の開始の鐘を鳴らす榮譽に授（さず）かりま

した。そしてバチカン宮殿では家内の京子と共にローマ法王との面会が許されました。

また、壊滅的な打撃をもたらしたハリケーン「サンディ」の直後にニューヨークの国連本部を訪れ、モンゴルでは遊牧民のテントの中に入りました。どこへ参りましても、現地の方々から温かい歓迎を受け、自宅でもてなしをいただいたり、友人のように接していただいたことに、感動いたしました。また、このロータリーのピンを身に付けられることの素晴らしさを、改めて実感いたしました。どこへ行っても、誰に会っても、ロータリーのピンを付けている人を見れば、その人がどういう人なのかが分かります。

どこに住んでいようと、何語を話そうと、どんな服を着ていようと、ロータリーのピンを付けている人なら、信頼することができます。同じ価値観を持ち、腹を割って話し合い、友情を分かち合うことができます。私は新潟県で生まれ、現在は八潮市に住んでいますが、ロータリアンとしてどこを訪れても、ふるさとを訪れているような気持ちになることができます。

私が小学生のころ、週に一度日曜日に母と私は、市場まで往復40キロの道を、リヤカーを引いて野菜を売りに行きました。その頃は日本人以外の方々とは、一度もお会いしたことがなく、私が生まれた村が私の全世界でした。ですから、私はいつも、旅することを夢に見ていました。遠くの町や国を夢見ながら、どんな所なのだろうと想像していました。それ以来、幸いにも、頻りに旅をする機会があり、自分で思いもよらないほど、世界のあちこちを訪れることができました。

しかし、ロータリーでの経験ほど私の視野を広げてくれたものはありません。ロータリアンになるまで、私の目に入っていたものと言えば、仕事、家族、顧客、競争相手など、身近なものばかりでした。旅に出ても、お決まりのものしか見ていませんでした。その背景にあるもの、自分と関わりがないと思うものには、気にも留めていませんでした。

関考友さんという地元の有志から誘われてこの地域のためになる組織や団体ならば進んで参加すべきという考えで八潮ロータリー・クラブに1975年に創立会員として入会しました。入会してから1～2年間はあまりなじみずに只出席だけをしていましたが、その後ある方が例会に来て、職業奉仕についてお話を下さったのです。



私は、その日から自分の生きる目的や人生の考え方が少しずつ変わってきました。収入や、売り上げを増やすことや、自分の会社を他の会社よりも良くし、大きくすることだけでなく、人として、職業人として、もっと良い、もっと高い目的を持って人生を送りたいと思うようになったのです。

そしてそのために、他の人たちの役に立つこと、そして地域社会の発展に少しでも寄与することが、私にとっての人生で最も大切なことだと思えるようになりました。さらに私は、どんな些細なことでも、地域や世界社会で困っている人々を助けることがいずれは平和につながることに気づきました。

ロータリーは、保健、衛生、食糧、教育などの人々の基本的なニーズに、最も必要とされている地域で応えることができます。そして、友情、つながり、思いやりといった、私たちの心のニーズにも応えることができます。さらに、国や民俗間の友情と寛容を推進することで、ロータリーは、最も伝統的な意味での「平和」を、つまり、互いを理解し合う後押しをしてくれます。

ロータリーの奉仕活動を通じて、私たちは、大きな問題のように見えることでも、力を合わせれば、すぐに解決できることを学んでいます。人を思いやることを学び、自分と違った境遇の人々と知り合うことで、人は皆同じであると理解できます。ロータリーの奉仕活動を通じて、私たちは、何かを達成しようとするなら、対立より協力を選ぶのが得策であることを知ります。

他の人の長所と短所、両方を尊重することを理解できます。そして、どのような人からも必ず得るものがあり、教えられるものがあることを学びます。私は、「超我の奉仕」は単なる標語ではないと考えております。それは、誰の人生をも、さらに豊かで、有意義なものにする、生き方を示していると思います。ロータリアンは、自分よりも、ほかの人のニーズを重視します。

自分のためだけではなく、社会全体のためを考えます。「超我の奉仕」という言葉は、人生で本当に大切なこと、エネルギーを注ぐべきことは何なのかを、私たちに教えてくれる言葉です。そうすることで、より平和な世界の基盤を築くことができると考えます。それは、「平和」をどのように定義するにしても、私たちは奉仕活動を通じて、平和をもっと現実にも近づけることができるからです。

また、「超我の奉仕」は、人はみな自分だけでは生きていくことができないとい

うことを教えてくれます。人との関わりのない人生は、空しく、つまらないものですが、家族、地域社会、そして人類全体における自分の役割を常に意識して、つまり、人のために生きること、この世界における自分の役割がはっきりと見えてきます。

私の世代は、戦後に日本で育った最初の世代でした。ですから、私たちが、それほど平和を重視するのは、当たり前かもしれません。私は一介のビジネスマンです。ただ、ビジネスマンとしての長年の経験から、私は、事業を成功させるには、顧客の満足を追求する以外にないという考えになりました。

顧客に喜んでもらえれば、事業も成長します。そうすれば私自身も幸せになります。しかし、それは事業が成功しているからだけではなく、人を幸せにしてあげることができるという認識があるからです。

最後になりますが一回しかない人生を常に思いやりの心を持って他者のためにそして社会のために自分の力の範囲に於いて少しでもお役にたてるよう努力することによって有意義に過ごすことが出ればこの上ない喜びとなります。ご静聴ありがとうございました。

皆さまが若者一人ひとりに力を入れるごとに、ロータリアンの思いやりが伝わります。「力を合わせれば、より良い世界に一步近づける」という、大切なメッセージが伝わります。皆さま、私は、ロータリーが世界をより良くしていると、心から信じております。ロータリーが、人類のすべての問題を解決できるとは思っておりませんし、それがロータリーの目標でもありません。

ロータリーの目標とは、世界をより良くすることです。全力を尽くして、現状を少しでも改善することです。みんなが力を合わせてこそ、より良い、より平和な世界が実現できます。私たちがロータリアンであるのは、本日ここで集まっているのは、そのためです。ご清聴ありがとうございました。